



ほほえみ 第96号

この頃、急激に寒さが増してきており、10月31日には、窓から岩手山の山頂付近に雪が積もっているのがわかりました。平地では、まだ雪は降らないと思いますが、流石に11月ともなると寒いですね。家族で「いも煮」をしようかと思っていたのですが、出張などで休日になかなか時間が取れませんでした。皆様は、秋の味覚は十分に召し上がられたでしょうか。

ケアの倫理

倫理学は幅が広い領域ですが、日本であまり知られていないものとして「ケアの倫理」というものがあります。倫理学に本来色分けはないのですが、ケアの倫理は、歴史的に女性が推進してきたものとなっています。

ケアの倫理学は、キャロル・ギリガン先生が提唱したもので、当初、彼女は、当初、有名なローレンス・コールバーグ先生の下で道徳の発達心理学を研究していました。

コールバーグ先生の提唱した道徳発達の順序は、

1. 慣習以前のレベル
2. 慣習的レベル
3. 脱慣習的レベル

であり、従来、道徳発達レベルを研究すると、女性の道徳的発達には男性よりもやや遅れていると結論されていました。これに、ギリガン先生が反論したのです。女性の道徳発達は慣習的レベルのように見えても、実際には、女性には女性らしい思考形式があり、必ずしも発達段階が遅れているのではないと考えたのです。女性らしい思考、倫理の形式がケアの倫理とされているものです。

人間は、ケアを受ける存在としてこの世に生まれてきます。人生の終末期になると、年をとって介護が必要となるのが自然ですが、このケアが必要な人たちにケアを与えてきたのは女性であり、女性にはケアに根差した倫理観があるとしています。ケアを求められた場合には、倫理的な思考、原理を適用するようなプロセスは馴染まず、関係性に根差した、思いやりのある決断が必要になります。また、ケアは主に女性が担ってきた歴史があります。現在この考え方は、従来の規範的な、原理的な倫理学とは異なる方向性をもつものとして受け容れられてきていますが、フェミニストという括り方で見られたり、ケアの倫理を体系的に定義づけることが困難なことなどから、課題も提案されています。

しかし、神経経済学のように、進化的に選択されてきた妥当性の高い行動を考え、人が発達させてきた倫理性というものを総合的に捉えるなら、人間社会を成立させる基本要素として、ケアの倫理を捉えなおすことが求められるのではないかと思います。ケアは、社会を成立させるために必要で、単にケアを女性に押し付ける形にするのではなく、社会構造として推進するような動きもあって然るべきかと思えます。

ギリガン先生の本は入手が困難で、だいぶ探しましたが、私は原書を海外から送ってもらう形でした。原書となるとなかなか読み進められないで大変です。日本では、エヴァ・フェダー・キテイ先生の本の方が入手しやすいと思います。私自身は、メタ倫理学、道徳語などから倫理を捉えることが多いので、対極なのかもしれませんが、重要な考え方を提案しているものとして、この機会にご紹介したいと思います。



ギリガン先生は、Wikipediaによれば81歳でご存命のようです。

患者の意向を尊重した意思決定のための相談員研修会(青森市)

先月、青森市で行われた表記の研修会に行ってきました。この研修会は厚生労働省の委託事業で、日本各地で開催されていますが、今年は青森から始まるということでした。北海道・東北地区の約30病院が参加しておりました。一日、セミナー、模擬形式でのトレーニングがあり、残念ながら、青森らしさは感じられませんでした。駅からの往復の際に、ちょっと市街地を歩けた程度です。

アドバンス・ケア・プランニングができる人材を育成するという目的もある研修会のように思いましたが、この課題自体は、むしろ、国の施策というか、トップダウンの印象です。日本に果たして根付くでしょうか。

写真は、青森駅で見た、「リゾート列車しらかみ」です。

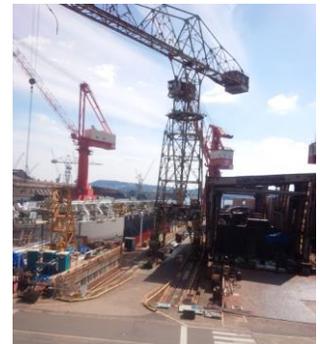


研究打ち合わせで、佐世保に行ってきました

先月、医療分野での意思決定の研究のため、共同研究をお願いしている佐世保共済病院さんに、打ち合わせのため行ってまいりました。早く伺おうとは思っていたのですが、研究の進捗状況や、地震や豪雨があったりで、なかなか良いタイミングがなく先月となりました。遠いかなと思っていたのですが、羽田まで行けばそれから先は、比較的スムーズに行くことができました。日本有数の港湾都市であり、軍港でもありますが、伺った日には中国からの豪華客船が来航していて、明るい港の風景と相俟って、仕事に来たのを忘れそうになりました。

佐世保共済病院さんは、佐世保の中核病院で、スターバックスの店員さんに、イオンから連絡通路があるから、イオンから行ったら良いと教えてもらいました。イオンの4階から連絡しているとは驚きです。佐世保は、天然の良港ですが、アップダウンもあり、丁度、うまく標高差が合うのですね。ちょっとした時間を使って、佐世保の造船所を見たのですが、大型クレーンが線路の上をスライドしている姿は壮観です。何時間でも見ていたい気もしました。また、佐世保といえば、佐世保バーガーということで、ログキットというお店で食べてみました。画像では分からないかもしれませんが、直径15センチ、厚さセンチぐらい(推測です)の巨大なもので、普通のバーガーのゆうに3-4個分ぐらいありました。

ハウステンボスも近いので、いつか、観光でも是非行きたい街ですね。



MEMO

11月のがん化学療法科の予定

- 11月3日 文化の日
- 11月6日 診療応援(平出先生)
- 11月13日 診療応援(工藤先生)
- 11月16日 新渡戸稲造記念メディカル・カフェ(予定)
- 11月20日 診療応援(平出先生)
- 11月23日 勤労感謝の日
- 11月27日 診療応援(工藤先生)

